

幼児の健康保育(一)

お茶の水大學助教授
愛育研究所員 平井信義

序として

子供の幸福を願うものにとつて、こゝろの發達と同様に、からだが丈夫でめきめきと大きくなつてゆくこと程、うれしいことはありません。

毎日毎日幼稚園に迎え、幼稚園から送り出す子供たちの中に、一人でも姿の見えない子供があると、實に淋しいことでもありますし、月々の體重をはかつてみると一向太らない子供には、本當に心配なものです。保母さんのいうことをきかない子、なかなか保育に入つてこない子、——之らの子供に頭を悩ます以上に、保母のこゝろを重くするものは、いろいろな體の故障でありましょう。

母親にとつても子供の病氣ほど厭なものはありません。深夜にけいれんを起して醫者が来るまでの不安さ、氷をかく音やれ薬やれ注射と子供を責める氣持、漸く元氣になつたと一息ついていと多額な勘定書、——日頃がみがみ叱つてい

る母親でも、病氣さえしてくれなければ、どんなきかん坊でも暴れん坊でもよいと思うことでしよう。

病氣している子供自身だつて、本當に病氣は苦手です。定つた時間に玄關でベルの音がします。先生が見えたのです。逃げかくれも出来ません。泣いても騒いでもおさえつけられずしてしまいます。痛い注射、不愉快な洗腸、先生の歸つたあとに残つた消毒薬の臭い、苦い薬も鼻をつまんでのまなければならぬ、お母さんがやさしく看護して下さるけれど、然し隣の次郎君と木登りしたり、溝のお玉杓子をつかまえていた方が、どんなに愉快であるか知れない……。

子供には病氣をさせたくないものであります。

幼稚園に子供をやる様になつてから、非常に丈夫になつたという感謝をしばしば母親から受けます。入園當初は手足もか細く、遊戯室の隅つこでしよんぼりしていた子供も、大きな子供たちから喧嘩を吹きかけられ泣かされたりしている中に、いつの間にか喧嘩を賣つたり弱いものをいぢめたり、ボ

スの様にさえなつて、からだ付きもがつしりし、眼は輝いて、ほんとうに頼母しくなるものであります。之は日本の子供に共通なふしだらであつた家庭生活に、幼稚園が一つの規律を與えたからであります。

幼稚園へ通い始めると、少くとも歸る途は間喰いが出来ません。ポケットにあめなどがしのばせてあつても、他の子がしていないことをするのは恥しいことです。朝もきちんとおきて顔を洗わないと、先生に淑ちゃんは今日も顔を洗つて来ないのね、と、ちゃんと知れてしまいます。夜更しも出来ません、鼻もたらしていられません。「おうちでの清潔」が出来ないと、先生からいたゞいた紙に○をつけることが出来なからです。本當に幼稚園はありがたいところです。幼稚園の生活が中心になつて、兎角ふしだらな家庭生活から救われたのであります。

然しながら、幼稚園にあげる様になつてから、病氣を貰つて来て困る、という非難をきかされることがあるのは、まことに悲しいことです。やれ麻疹をうつされた、次は水ぼうそうになつた、顔にははたけが出来はじめた、出来ものが出来て困る、毛虱まで背負込んだ……。それ御覽なさい、だから家の子供は幼稚園に出しませんのよ、と隣の奥さんにいばられてしまう。隣の子の様に引込思案で内辯度で、顔も青く、日蔭の花みたくても困るけれど、こう病氣ばかりさねたもたまつたものでない、——そう母親たちは思うのです。

こうした非難について、幼稚園の側ではいろいろなことを

考えなくてはなりません。然し正直に言えば、恥しいことなのです。何としても病氣の媒介所であつては困ります。お母さん達もつと注意して、病氣の子供は出してくれないといふのだけれど、——之が保母さんの苦情には違ひありませんが、病氣らしい子供がやつて来たなら、早く見付けて適當な方法を講ずること、その様な子供を幼稚園に寄越さない様に母親を指導すること、——これらも保母さんの大切なつとめではないでしょうか。子供のこゝろの問題について、例へば内氣な子供にはおうちでこの様に扱つてごらんなさい、と指導する様に、具合の悪い子供についての見方、かんたんな處置を指導すること位は、保母さんの權利として主張したいものであります。

ところが近頃、いくたびか私は幼稚園に經驗の厚い方々とお話をする機会を得ましたが、その方々の中に、子供のからだのことは醫者とか保健婦にまかせておけ、保母はからだの點まではとても力が及ぶものではない、それでなくとも忙しいのだから、という御意見をもつている方があるのに氣付いたのであります。

前々から、保母さん方とお話をしながら、こうした點で非常に殘念な氣持を持つていましたし、保母さんを養成する教育にからだの方面がおるそかであるのを不満に思つていました。この缺陷を補うものとして保健所から醫者や保健婦が見廻つてくれる制度もよいでしょう。囑託醫の制度を確立するのもよいでしょう。然し現在の急に合いません。

假りにこうした制度が確立しても、子供たちの生活の半分をあづかつているものは保母さんであります。而も母親以上に子供の尊敬を集めている保母さんであり、母親にとつても子供の生活について頼りとしている保母さんなのです。もう一步保母さんが前進して、心身兩面（實は背中合せ）について子供の生活の中心になつていたゞきたい、というのが私の念願なのであります。醫者が囑託になつていても、刻々子供と生活を共にして、微に入り細を穿つて子供の生活を知つてゐるものが保母さんでありますから、第一に保母さんの力によるのでなくては、子供たちの健康も恐らく護られないでしょう。

たゞ問題は、どの程度身體方面の知識を持ち、どの程度にそれを應用したらよいか、ということでもあります。それに關連して教育機關又は教育制度の問題が起きて來ます。と同時に保母さん方を支持する囑託醫の在り方、或は醫療機關の在り方をも考えなくてはなりません。これらが一致協力して、明日の時代の新しい保母さんを作ることでありましょう。この問題については、講座の終りに述べる豫定で居ります。

いよいよ本論にうつるのであります。私が日頃健康保育に従いながら、或いは非常に成功したこと、或いはとんだ失敗をし、その結果いろいろの空想を描いて自らを慰めたことなどを思いつくまゝに書きなぐつてゆかうと思ひます。出來るだけ系統立てゝはみましたが、拙い筆の赴くまゝでありますから、どんな脱線をするかわかりません。

どの子どもどの子ども、元氣のよい顔で、先生おはようと、幼稚園にかけ入つて來る姿を見ながら、又一日の保育を終えて無事に幼稚園の門から子供を送り出しながら、たゞとゞ自分の手に委ねられてゐる子供たち、而も明日を背負つて立つ子供たち、——こう思うと、何か感傷的な氣持にもなるのですが又身ぶるいの出る様な緊張をも感じます。

目次

第一部

- (一) 保育案。
- (二) 保母の健康。
- (三) 健康保育のための施設。
- (四) 入園當初の注意。
- (五) 調査する事項。
- (六) 視診と病氣の早期發見。
- (七) 基本的な衛生の躰け。
- (八) 豫防注射とその意義。
- (九) 健康保育一日の實際。
- (十) いろいろな検査、測定。
- (十一) 母の會と母の講座。
- (十二) 家庭訪問。
- (十三) 遠足と運動會。
- (十四) 健康教育の方法（お話、紙芝居）
- (十五) 一ヶ月期及び一年の整理。

第二部

- (一) 幼児の發育。
- (二) 養護。
- (三) 榮養。
- (四) 病氣。
- (五) 看護。
- (六) 體質。
- (七) くせ。
- (八) こころの衛生。
- (九) 公衆衛生。
- (十) 健康の意義。

第三部

(一) 囑託醫。 (二) 保健所及び醫療制度。 (三) 保母の育児教育。

第一部

一、保育案

四月に年度が變り、幼稚園のはじまる前のいく日かを、新しい園児たちの顔を思い浮べながら、保母さん方は保育案の作製にあれこれ智恵をしまはれることとせう。遊戯、お繪かき製作など、どれから始めようか、これにしようか、と、づい分樂しいことであり、希望の多いことであると思ひます。

その際に決して忘れてならないのは、健康保育のプランであります。差當つていろいろな衛生上の躰けをしなくてはならぬでしょう。目方や身長も測らなくてはならぬでしょう。然し健康保育のプランといつても、いわゆる保育のプランと別個にあるものでも、併行しているものでもありません。保育のプランがそのまゝ健康保育のプランになる様に考へて欲しいということとです。

健康保育にとつて一番大切な材料は、太陽と新鮮な空氣であります。太陽を材料だなどというところも叱られるかも知れませんが、太陽は子供の健康のためには材料といわれようが、何と云われようが潔く身を投げ出して下さつてゐるのです。こ

の恩恵を受け取ることを忘れたときには、子供たちは青白いもやしとなつてしまひます。

一年を通じて日光に當たる機會の少ないのは、梅雨期と冬期であります。冬期は雪國を除いては、求めれば日光に當たるものが出來ますが、梅雨期には雲低く垂れこめて、なかなかその機會がありません。ですから雨の多い季節には一寸した霽れ間をみて、その機を逃さず子供を外に連れ出すことが大切です。

プランのない保育は困りますが、プランに忠實すぎて、臨機應變のない保育でも困ることは、健康保育に當つても同様です。ですから雨の多い季節には、太陽を待ち焦れる氣持をお話や歌で子供たちに傳えておき、雲間から太陽が顔を出したら、パツと外に飛びだしてゆきましょう。日頃尊敬してゐる保母さんで、その「バット」が實に上手な方があります。保母さんに従つて、子供らが喜んで屋外に飛び出してゆく様子は、何といふまじようか、私には表現出來ません。

冬期は兎角寒いために、家の中に引込みがちになります。保母さん自身が悲いので、ストーブに炭を入れることばかり氣付かつて、外に出ることを忘れては困ります。子供は風の子ですから、寒くても實に平氣であります。もし寒がつて背中を丸くしている様な子供がいたら注意しなければなりません。冬でも風のない日の午前ば、紫外線も多く、暖かです。走ると汗ばむ位であります。

汗といへば、夏は暑すぎるから、顔が焼けて黒くなるから

といつて外に出たがらない保母さんはありませんか。どうも太陽に當ると頭痛がする、という方もありませんか。保母さんが外に出ないと、どうしても外に出たがらない子供のグループがあります。そんな子供たちのために、是非進んで外に出て欲しいものです。皆の子供が太陽の輝く下で遊んでいる聲をききながら、がらんとした室で子供たちが残していつた臭いをかいでいると、本當に幸福な氣持に打たれます。

保育案とはちがいますが、家庭との連絡のために、傳染病豫防のために、幼稚園が始る前に一回、母の講座を持ちたいと思います。それには園長のお話がよいでしょう。或いは保母さんが出來ればそれに越したことはありません。この計畫は是非立てゝ下さい。入園式の日、おたふく風、水ぼうそう、百日咳の子が啼着を着てつれて來られることも稀ではありませんから。

以上、保育のプランを立てるときには健康保育のことも必ず頭に入れる様に、とお話したのですが、それによつて保母さん方には、あそびとか遊戯の形がいろいろちがつて來ると思います。それらをいかに用いてゆくかは皆さんの技術であり才能であります。よい保育を見せていたゞきたいものです。

二、保母の健康

よい保育をするためには、保母さんの健康が土臺であります。保母さんに、食慾がない、おなかとしくしくしたい、頭が重い、背中がいたい、膝の關節が具合が悪い、などなど故

障(之は保母さん方から私が訴えられたからだけの故障の主なものです)があると、保育は全く精氣のないものになつてしまいます。倉橋先生がこゝろに故障の多いものは保母として充分の働が出来ないという様な意味を誓いていられたことを記憶していますが、からだについても本當にさう感じます。

ところが保母さんの仕事は重労働に近いものです。子供たちと一緒に立つたり坐つたり走つたりしなければならぬのですし、それに子供を預つているという心労は大變なものでしょう。私も一日保母さんに代つて一人で保育を試みたことがありますが、本當疲れて二度とする勇氣が出ない位でした。勿論慣れゝばづつと疲れが少なくなるのでしょうが……。

従つて新しく保母さんになられた方は、毎月の生理にも故障が多くなる様です。目下そうした保母の健康について調査していただきますから御助力いたゞきたいのですが、しばしばその様な訴えがあることは、本當にお氣の毒に思います。生理休暇ということがよそではさかんにいわれていますが、子供たちのことを思う保母さん方は、ついつい無理を押しても幼稚園に出て來られる様です。殊に手の足りない幼稚園では、休むことが出來ない、という現状でしょう。

この問題をどうしたらよいかは、いろいろな觀點から考えられねばなりません。第一に申したいことは、この様な實際の保育に精氣のないことです。(四三頁下段)

モデル保育所設定標準（案）

- 一、設置場所は児童福祉法第二十四條の措置該當児童の最も多い地域であること。
- 二、保育する児童は乳児、幼児、學童を通じて眞に措置の必要度の高い児童だけを入所させるべきであるが設備及び職員に餘裕のある場合に限りその他の児童を入所させているものであること。
- 三、職員は何れも人格的にすぐれ児童福祉に對する熱意があつて乳幼児保育の技術に秀いでた人が揃つてゐること。
- 四、保育時間は八時間を原則とするものであるが特に必要な家庭の児童についてはその事情を考慮して必要な時間中保育してゐること。
- 五、その他の運営についても家庭の事情を考慮してその児童の必要なものを補つてゐること。
- 六、保育方法は児童の個性とその自發活動を重んじ個別的及び集團的に適切な指導をしてゐること。
- 七、保育の内容は年齢に應じ身心の發達に即して行われてゐること。
- 八、衛生營養等に留意して正しい生活の基礎訓練を與へ、社會人としての人格の育成に留意されてゐること。
- 九、家庭との連絡が保育されている児童の問題を中心にして緊密に行われ、その指導が充分に出來てゐること。
- 十、施設所在地の人々との連絡が充分で地域活動が行われてゐること。
- 十一、その他建物、設備職員の構成とその待遇、保育の内容等が最低基準に合致してゐること。

（四〇頁より）

逆に保育をみていて、保母さんに精氣がないと、何かからだに故障があるのではないかと私には心配でなりません。

醫者としては、子供たちの健康管理をする前に、保母さんの健康管理を行はなくてはならない、と思ひます。保母さん自身も、いつもいつも自身の體に注意して欲しい、子供たちと一緒に檢便もしてもらう、月々體重も測つてみる、と積極的に關心を持つていたゞきたいものです。太つてゐるのがわかるから厭だ、などといつて體重をはからない保母さんはありませんか。疲れたというから、ビタミンBを注射しなさいという、痛いから厭だという方はありませんか。

からだには充分に注意し、子供たちのために故障のないものとしておきましょう。一端故障が生じたときは、その故障を取除くことに専念しましょう。その時によい助言者となるこの出來る醫者が、園醫であつて欲しいと願ひます。（つづく）